



五常

編集発行
コミュニティ
協議会
広報委員会

人口
7,162人
世帯数
2,704世帯
19年3月

防災フェスティバル開催

五常校区防災フェスティバルが、三月十八日(日)五常小学校グラウンドで開催されました。寒気が戻り小雪が舞う中での決行でした。

近い将来必ず起きると予想されている東南海・南海地震による災害に備えての防災訓練です。

先ず、避難訓練。注目の避難人数は自治会長はじめ関係者のご尽力により、昨年度を約五十名上回り、当日の盛り上がりが予感されました。例年より子供たちの参加が多く(全体の約三十%)活気のある雰囲気になり、明日に生きた子供達への期待と安心が感じられました。

九時三十分開会式。会長挨拶、枚方市長メッセージ伝達、来賓挨拶と続き、行政関係機関からの出席者(十五名)が紹介され、当校区と行政当局との密接な繋がりが示されました。

十時、競技形式の防災訓練がスタート。バケツリレー、担架リレー、防災グッズ探しと順に進め、並行して大声コンテストを実施。また、競技とは別にアルファームの炊出し訓練を実施しました。(閉会後参加者全員に配布)

競技実行委員の適切な誘導と参加者の高い意欲により、三項目とも百名は難なく揃い嬉しい限りでした。

バケツリレーと担架リレー前後五分間の消防署員と女性消防団による指導は、競技全体を引き締め、参加者には競技への理解と安心を与えてくれたようです。バケツリレーは、楽に！迅速に！水をこぼさずに！担架リレーは、安全！確実に！がポイント。

参加者は、親子・おばあちゃん・おじいちゃん入り混じりのチーム編成で、競技は真剣かつ楽しく！参加賞ゲットで更に楽しく！

ご指導役の宇都消防指令は「いいですね！上手く行っていますね！」。

取材中の危機管理部の御明氏は「手作りです！これは本当に素晴らしいですよ！」と好評。

山本消防司令長は、「皆さんの防災意識の高さを感じます。これが今後多くの防災リーダーの育成に役立っていくと信じます」と講評されました。

最後に、この防災フェスティバル開催に向けてご尽力頂いた方々、並びに、ご協力頂いた各自治会・理事会の皆様へ深く感謝致します。

そして、来年度は更に進化させて、五常校区の防災力の強化に繋げていきたいと思っております。

実行委員会

会長 山口 楠夫

バケツリレー

防災訓練を競技形式で行うことに決まり、バケツリレーのルール作りに悩みましたが、試行錯誤を重ねスペインに分けて小刻みにバケツを運んでいくというルールでさせていただきますました。

最初の種目だったので始まるまで参加者が集まっていただけか不安でしたが、参加を呼びかけるとすぐに予定の百名が集まり安心いたしました。また皆さん笑顔の中にも真剣に取り組んでいた様子もありがとうございました。

競技の前後で消防署の方からの説明や講評は大変参考になりましたが、皆さん熱心に聞いておられたのも印象的でした。

今後も防災訓練の参加者が増えるよう工夫が必要かとは思いますが、皆様にもできる限り参加していただけるよう期待いたします。(岡崎)



バケツリレーに参加の男性群

担架リレー

「えっ、それで担架が本当にできるのですか？」実は私はこの担架リレーの企画を担当するまで、二メートルほどの竿二本と毛布一枚で担架ができることを知りませんでした。

さて、防災フェスティバルの当日では、消防署職員の方から、担架の作成方法の説明をいただきますと、多くの方が、驚きと懐疑の眼差し、しかし、実演で人が運ばれますと感心する声に早変わり。この担架リレーは、担架を運ぶ人の意気を合わせることに大切で、参加されたあるチームは、「イチニ、イチニ」と声をかけて運ばれており、消防職員の方からお褒めのコメントをいただきました。

この担架リレーを通じて、日常使っている意外なものが防災に役立つ、その使い方を知ることによって、自主防災の意識が上がっていくと確信しました。今後も皆様の自主防災意識の高揚に貢献したいと思います。

(栗野)



女性の方も積極的に参加頂きました

防災グッズ探し

ゲームとしては若干「競争」という色が濃くなったので活気があり盛り上がったものになりましたが、反面「競争」にばかり意識が働き過ぎて防災としての認識を持ちながら参加していただけなかったという点に不安が残ります。



防災グッズ探しに子どもたちも参加

来年度から担当が交代します。より充実した紙面になることを期待しています。(編集子)

改善策として、防災グッズの品目を「サランラップ」「ジャッキ」「ボール」「ポリタンク」など、もう少しマイナーなものにしてゲーム後それらがどんな時に必要なかを説明する事で、もう少し防災の意味を含んだゲームになりえたのではないかと思います。また、当日準備した「懐中電灯」と「ラジオ」の見分けが付き難かったという声がありましたので、企画の段階でグッズ確認の徹底を図るべきだったと反省しております。(積)